

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：12602

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K18933

研究課題名（和文）個別化された子育て支援による虐待予防：RCTを用いた効果検証

研究課題名（英文）Child Abuse Prevention through Personalized Parenting Programs: A Randomized Controlled Trial

研究代表者

伊角 彩 (Isumi, Aya)

東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・講師

研究者番号：70773175

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は母親や家庭の状況に応じて個別化された子育て支援が虐待予防に効果があるかを、ランダム化比較試験（Randomized Controlled Trial: RCT）を用いて明らかにすることを目的とした。東京都の産科医療機関で助産師外来を受診する妊娠36週以降の母親をリクルートし、同意が得られた母親をランダムに介入群と対照群に割り付け、介入群には東京都と大学研究者の協働事業において開発した子育て支援ウェブサイト、対照群には既存の子育て支援情報をリクルート時に提供した（501名）。その結果、生後1年間の赤ちゃんへのボンディング等に対して介入効果が見られたかを検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、個別化された子育て支援をRCTを用いて定量的に評価した点で、これまでの子育て支援の研究と異なり新しい。妊娠期から産後までを対象に、母親や家庭の状況に合うように個別化された子育て支援コンテンツをポピュレーションベースで提供した点が学術的にも社会的にも有意義だと考えている。また、ウェブサイトを用いた子育て支援は新たな人手がかからず、自治体や医療機関における既存の枠組みを用いて普及させることができ、本研究成果をもとに今後の展開・普及が期待される。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to examine whether individualized parenting support based on maternal and family's situation is effective in preventing child maltreatment, using a randomized controlled trial (RCT). Mothers who visited midwife outpatient clinics at maternity hospitals in Tokyo after 36 weeks of pregnancy were recruited. Those who gave consent were randomly assigned to an intervention group or a control group. The intervention group was introduced to the website which was developed by our research team, while the treatment group was introduced to the existing website of Tokyo Metropolitan Government (N=501). As a result, we examined whether the intervention was effective to increase maternal bonding during the first year of life.

研究分野：公衆衛生学、社会疫学

キーワード：子ども虐待予防 子育て支援 ランダム化比較試験

1. 研究開始当初の背景

児童相談所における虐待相談対応件数は増加し続け、2018年度には初めて15万件を超える¹など、子ども虐待は日本において喫緊の課題である。虐待を予防する取り組みとして、日本では母子保健システムを活用してリスクのある妊産婦を特定し、保健師が面談や家庭訪問を通じて支援するハイリスクアプローチが主となっている。しかし、虐待は死亡事例につながるような重篤なものから表面化しにくい軽度なものまで、幅広いレベルや様々な形で起こっており、急に重篤化するケースも少なくない。また、虐待のリスク要因は複数のレベル（親、家庭、地域）にわたり併発する²。そのため、虐待を減らすためにはリスクのある親を対象としたハイリスクアプローチだけではなく、すべての親を対象としたポピュレーションアプローチで子育てに関する知識やスキルを全体的に向上させる必要がある³。子育てに関する情報はインターネットや書籍などに溢れているが、エビデンスに基づいた正しい情報や、自分や自分の子どもに適した情報を選別するのは難しく、必要な情報がすべての親に届いていない可能性がある。さらに、親や子どもが置かれている状況は婚姻状況、子どもの数、経済状況、就業状況など多様であるため、適切な子育て知識やスキルを広く普及させるためには、個々の状況に応じた子育て支援コンテンツを提供することが重要である。そうすることによって、親の子育て支援コンテンツに対する需要が高まり、その知識やスキルを実際の子育て場面に活用する可能性が高まると考える。

また、ハイリスクアプローチと同様、ポピュレーションアプローチにおいても、何が効果的かを定量的な評価によって明らかにした上で、エビデンスに基づいた子育て支援コンテンツを普及していくことが求められている。

2. 研究の目的

本研究は母親や家庭の状況に応じて個別化された子育て支援が虐待予防に効果があるかを、ランダム化比較実験（Randomized Controlled Trial: RCT）を用いて明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

東京医科歯科大学医学部附属病院および都立大塚病院の産婦人科で、助産師外来を受診する妊娠36週以降の母親を対象にリクルートを行い、同意が得られた母親をブロックランダム化（中央登録にて割付コードを作成・管理）により介入群と対照群に割り付けた。

介入群には申請者やその研究チームが東京都と大学研究者の協働事業において開発した子育て環境診断・スキル向上サイト「もしプリ」(<https://moshipri.jp/>)を、対照群には既存の子育て支援情報（とうきょう子育てスイッチ:<https://kosodateswitch.metro.tokyo.lg.jp/>)をリクルート時に提供した。「もしプリ」では、まず母親が入力した母親自身および家庭の状況をもとに7つにタイプ分けされ、それぞれのタイプに必要なと思われるコンテンツが5つ程度、優先的に表示される。また、その他のコンテンツも関心があれば閲覧できるようになっている。これらのコンテンツは、妊婦および0~3歳の子どもを持つ母親を対象に、母子保健や臨床心理学の専門家らで開発されたものであり、できるだけ動画や写真・イラストを活用してシンプルに必要な情報を伝えられるような工夫がされている。介入群の母親は、出産後から子どもが1歳になるまで継続して、これらのウェブサイトの閲覧が可能となる。退院後もウェブサイトの閲覧を促すため、出産後と生後3か月時にメールやLINEでウェブサイトの案内を送った。なお、研究期間終了後には、対照群にも「もしプリ」のURLを情報提供した。

介入群・対照群に対し、退院時、生後3か月時点、1歳時点に質問紙調査（オンラインあるいは紙媒体）を行う。アウトカムとして（1）赤ちゃんへのボンディング（赤ちゃんをかわいと思う気持ち）、（2）産後うつ、（3）育児行動、（4）援助希求行動、（5）赤ちゃんの泣きや睡眠に対する認識について下記の通り測定し、介入群と対照群でこれらがどのように異なるかをt検定や回帰分析を用いて検証した。

- （1）赤ちゃんへのボンディング：赤ちゃんの気持ち質問票（MIBS; Mother-Infant Bonding Scale, 0~30点）を用いて評価し、4点以上をボンディング障害（赤ちゃんに無関心、赤ちゃんを拒絶）の可能性ありとする。
- （2）産後うつ：エジンバラ産後うつ病自己評価票（EPDS; Edinburgh Postnatal Depression Scale, 0~30点）を用いて評価し、9点以上を中程度以上の産後うつ傾向ありとする。
- （3）育児行動：赤ちゃんに話しかける頻度、赤ちゃんと遊ぶ頻度、赤ちゃんに読み聞かせを行う

頻度について質問紙で項目は尋ねる。

- (4) 援助希求行動：子育てで困ったときに相談をしたり、助けを求めたりしたかどうかについて、また誰に相談したかについて質問紙で尋ねる。
- (5) 赤ちゃんの泣きや睡眠に対する認識：赤ちゃんがよく泣く方だと思うかどうか、赤ちゃんが泣くことにストレスを感じるかどうか、赤ちゃんがよく寝る方だと思うか、赤ちゃんが夜中に起きたり泣いたりすることにストレスを感じるかどうかを質問紙で尋ねる。

4. 研究成果

東京医科歯科大学医学部附属病院の産婦人科では 2021 年 12 月下旬より合計 364 名の妊婦をリクルートし、300 名から同意およびリクルート時アンケートへの回答を得た（同意率 82.4%）。同意撤回があった 1 名、死産の方 2 名を除いた 297 名のうち、97.6%（290 名）が出生時アンケートに回答、89.6%（266 名）が 3 か月時アンケート、71.7%（213 名）が 1 歳時アンケートに回答した。一方、都立大塚病院の産婦人科では、新型コロナウイルス感染症の影響でリクルート開始が遅れたが、2021 年 10 月初めから合計 300 名の妊婦を対象にリクルートを行い、201 名から同意およびリクルート時アンケートへの回答を得た（同意率 67.0%）。そのうち、92.5%（186 名）が出生時アンケートに回答、82.6%（166 名）が 3 か月時アンケートに回答、64.7%（130 名）が 1 歳時アンケートに回答した。

合計 501 名の参加者のうち、対照群は 252 名、介入群は 249 名にランダムに振り分けられた。これらの 2 群において、ベースライン（妊娠 36 週）時に対照群と介入群が属性およびアウトカム項目（ボンディング、産後うつ）に差が見られるか検証したところ、表 1・表 2 の通り、両群に大きな差は見られなかった（婚姻状況を除く）。

表 1 ベースライン（妊娠 36 週）時の対照群と介入群の属性比較（カイ二乗検定）

		対照群(N=252)		介入群(N=249)		
		N	%	N	%	
婚姻状況	既婚(事実婚を含む)	250	99.2	245	98.4	P = 0.049
	未婚	0	0	4	1.6	
	無回答	2	0.8	0	0	
学歴	中卒(高校中退も含む)	2	0.8	1	0.4	P = 0.759
	高卒	22	8.7	21	8.4	
	短大・専門学校(大学中退も含む)	60	23.8	67	26.9	
	大卒	139	55.2	129	51.8	
	大学院卒	26	10.3	30	12	
	答えたくない・わからない	1	0.4	1	0.4	
	無回答	2	0.8	0	0	
就業状況	フルタイム(育休中を含む)	169	67.1	154	61.8	P = 0.497
	パートタイム(育休中を含む)	19	7.5	24	9.6	
	自営業・家業	15	6	10	4	
	その他	6	2.4	6	2.4	
	専業主婦・仕事をしていない	41	16.3	54	21.7	
	無回答	2	0.8	1	0.4	
世帯年収	200万円以下	1	0.4	1	0.4	P = 0.792
	201万から400万円	15	6	22	8.8	
	401万から600万円	43	17.1	38	15.3	
	601万から800万円	44	17.5	41	16.5	
	801万から1000万円	52	20.6	43	17.3	
	1001万から1500万円	59	23.4	55	22.1	
	1501万円以上	21	8.3	29	11.6	
	答えたくない・わからない	12	4.8	16	6.4	
出産経験	無回答	5	2	4	1.6	P = 0.293
	初産	144	57.1	130	52.2	
	経産	105	41.7	118	47.4	
ボンディング	無回答	3	1.2	1	0.4	P = 0.177
	4点未満	180	71.4	173	69.5	
	4点以上	69	27.4	76	30.5	
EPDS	無回答	3	1.2	0	0	P = 0.365
	9点未満	229	90.9	227	91.2	
	9点以上	21	8.3	22	8.8	
	無回答	2	0.8	0	0	

表2 ベースライン（妊娠36週）時の対照群と介入群の属性比較（t検定）

	対照群			介入群			P
	N	mean	SD	N	Mean	SD	
年齢	250	33.84	4.43	249	34.08	4.86	0.564
ボンディング合計点	249	2.75	2.91	249	2.88	3.28	0.623
ボンディング(拒絶)	248	1.00	1.23	249	0.85	1.22	0.188
ボンディング(無関心)	249	1.57	2.09	249	1.71	2.07	0.464
EPDS合計点	250	3.68	3.91	249	3.34	3.56	0.312

効果検証のため、生後3か月および1歳時点の5つのアウトカム（1）赤ちゃんへのボンディング（2）産後うつ、（3）育児行動、（4）援助希求行動、（5）赤ちゃんの泣きや睡眠に対する認識に対して、介入群と対照群で統計的に有意な差が見られるのか解析を行った。その結果については論文で報告を行う予定である（現在論文を執筆中）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 伊角彩・土井理美・山岡祐衣・藤原武男
2. 発表標題 子育て環境診断・スキル向上サイト「もしぷり」：1. 東京都足立区への導入と効果検証
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土井理美・伊角彩・山岡祐衣・藤原武男
2. 発表標題 子育て環境診断・スキル向上サイト「もしぷり」：2. 東京都八丈町への導入と効果検証
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊角彩・土井理美・山岡祐衣・藤原武男
2. 発表標題 子育て環境診断・スキル向上サイト「もしぷり」 ランダム化比較試験の実施状況
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤原武男・山岡祐衣・伊角彩・土井理美
2. 発表標題 子育て環境診断・スキル向上サイト「もしぷり」 子育て環境のアセスメント
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山岡祐衣・土井理美・伊角彩・藤原武男
2. 発表標題 子育て環境診断・スキル向上サイト「もしプリ」 子育てスキルのコンテンツ
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 土井理美・伊角彩・山岡祐衣・藤原武男
2. 発表標題 子育て環境診断・スキル向上サイト「もしプリ」 自治体への導入
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

子育て環境診断・スキル向上サイト「もしプリ」 https://moshipri.jp/

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------